

自己評価結果の公表事項（児童自立支援施設）

施設名等

名 称：熊本県立清水が丘学園
種 別：児童自立支援施設
施設長氏名：村上 善生
定 員：50名（令和3年度暫定定員：12名）
所 在 地：熊本県熊本市北区打越町38番地1号
T E L：096-344-7600

調査実施日

令和4年3月1日（火）～令和4年3月30日（水）

自己評価結果表【タイプA】（児童自立支援施設）

共通評価基準（45項目） I 支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	自己評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】	
・運営理念に基づく運営方針及び児童処遇の基本方針が、当学園の児童自立支援業務マニュアル（以下、「業務マニュアル」という。）に明文化されており、その運営理念はパンフレットやホームページ等にも記載している。職員はその理念を踏まえ子どもの支援にあたっている。マニュアルは全職員に配布し、新任職員研修等の場で活用し理解促進に努めている。しかしながら、理念や基本方針について寮内など周知状況の確認については十分とは言い難い。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	自己評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○
【判断した理由・特記事項等】	
・社会福祉事業全体の動向把握までには至っていないが、社会的養護の動向に関しては、様々な会議、研修等に参加したり、国のホームページ等から必要な資料を集める等、その把握に努めている。また、各児童相談所とも定期的に連絡を取り、非行少年の状況や非行の態様等について情報交換を行っている。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
・施設長を中心に寮運営の課題について協議を行い、適宜、必要な対策を行っている。具体的には、心理療法担当職員の常勤配置、夜間の支援体制強化を図るための会計年度任用職員の配置を実施している。また、関係機関からの要望が高かった中卒児の受け入れ、支援にも取り組んでいる。		

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	自己 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容で明文化されている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
・県では社会的養育ビジョンに沿った熊本県社会的養育推進計画が令和2年3月に策定され、学園の施設整備計画も進められている。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【判断した理由・特記事項等】		
・年間の事業計画については、社会的養育ビジョンに沿って施設が取り組むべき重点事項を明確にした実行可能な具体的内容となっており、全職員共通認識のもと取り組んでいる。		

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・事業計画（重点事項）の策定に当たっては、職員会議に諮り全職員の意見を踏まえ策定している。
- ・策定後は、年度当初の職員会議において全職員に周知するとともに分校職員にも説明し、当該計画に基づく連携した取り組みを実践している。
- ・年度末に事業計画の評価を行い、取り組みが不十分な項目については次年度も継続して取り組むこととしている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・学園祭、授業参加、卒業式等の行事に関しては、ほとんどの保護者の参加が得られており、その際、学園パンフレットや学園新聞等を配布するなど行事計画の周知を図っている。

4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

自己
評価結果

①	8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・支援状況については、毎月の運営会議において点検を行い、当会議で出された必要な意見については各寮会議、指導課会議で議論し支援の質の向上に取り組んでいる。
- ・毎年自己評価を行うとともに、定期的に第三者評価を受審している。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

・第三者評価、自己評価の結果等を踏まえ、優先して対処すべき課題を事業計画に反映し取り組んでいる。（近年では、アフターケアの充実、職員研修の充実など）
 ・改善の取り組みについては、優先度の高い項目をピックアップして取り組んでいるが、全ての課題について計画的に取り組んでいるとは言い難い。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	自己評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・事務分掌において施設長として果たすべき役割を明確にしており、かつ、子ども達の最善の利益を常に念頭に置き施設の運営に取り組んでいる。
 ・また、自らが志す施設運営のあり方や支援の方向性について、職員会議の場で表明し、職員の理解を図っている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・全国・九州ブロックの施設長会議等をはじめとして、法令順守の観点から幅広く児童福祉法、労働関係法令等の各種研修会等にも参加し、機会あるごとに職員に周知している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・安定的な施設運営を目指し、問題が生じた際は積極的に職員と意見交換を行い課題解決に向けた確な指示を行っている。
- ・他県の運営状況に関する資料を把握分析し、質の向上となる取り組みについては適宜実施（福祉各分野の有資格者採用の強化、心理療法担当職員の週5日間勤務体制や夜間児童指導員の配置など）。
- ・職員研修の充実を図るため必要な予算を確保し、計画的に派遣研修等に取り組んでいる。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・夜間帯における児童の安心安全の確保並びに職員の心身面における負担軽減を図るため、職員体制の充実（夜間児童指導員の配置：会計年度任用職員）を図っている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	自己評価結果 b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・支援の質を確保するため、社会福祉士等の有資格職員の配置に取り組んでいる。
- ・心理士はその専門性を活かし、子ども達が抱える課題についての見立てやそれに基づく支援方法等について適宜施設職員にアドバイスしている。
- ・家庭支援専門相談員や個別対応職員は兼務となっており、専任での配置とはなっていない。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができて	
	いる。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・「期待する職員像」については、業務マニュアルに明確にされており、職員自ら自身の専門性向上のため積極的に研修を受け能力向上を図っている。
- ・人事評価に関しては、県の人事評価実施要綱に基づき適切に行われている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・職員の心身面の状態については、各班長を通して定期的に把握する体制を構築しており、疲労の様子がうかがえる職員に対しては、必要に応じて宿直勤務を減らしたり、一定期間休暇を取得させる等組織として取り組んでいる。また、平成29年度から夜間児童指導員(非常勤)を配置し、児童支援及び見守り体制を強化している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・職員一人ひとりの目標設定管理に関する仕組みが構築されている。
- ・目標設定に関しては、年度当初に管理職との面接等を踏まえ取り組み内容を設定し、年度中間・年度末の再度の面接において目標達成の状況について確認を行っている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・事業計画(重点事項)に職員研修の充実を位置づけ、研修体系や受講区分を明確にしている。
- ・年度当初に策定した研修計画に基づき、着実に取り組んでいる。
- ・当学園の課題に沿った研修会を企画。令和3年度は外部講師を招いて性教育並びに家庭支援に係る職員向け研修会を開催するなど課題解決に向けた施設内研修も実施している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・経験年数や習熟度に応じた研修機会を確保し(全職員)、OJTにも積極的に取り組んでいる。
- ・日頃より研修に関する情報収集を行い職員に情報提供するとともに、効果的な研修については積極的に参加させている。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・実習生の受け入れに関する方針を明確にし、担当職員を配置。社会福祉士養成実習等に関しては、平成28年度に1名、令和元年度に1名、令和3年度にも1名の職員が実習指導者の要件を満たすために必要な研修を受講した。
- ・令和3年度は4名の実習生を受け入れた。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

自己
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・県のホームページに施設理念や支援の内容、第三者評価の受審結果等を公表している。
- ・地域に向けた広報誌等の配布は行っていないが、毎年、地域の方を学園祭に招待し学園の活動内容等をわかり易く説明している。
- ・大学や地域の主任児童委員等からの視察見学を積極的に受け入れているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ受け入れを中止せざるを得なかった。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・毎年、経理等に関しては県監査委員事務局による監査、運営面に関しては県社会福祉課による指導監査を受けている。
- ・経理、取引等に関しては、県の会計規則等関係法令に基づき適切に処理されている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		自己 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に施設近隣の地域清掃活動を行う等、可能な範囲で地域との交流に取り組んでいる。 ・通院については、子ども一人ひとりの状況に合わせて医療機関を選択している。 ・毎年学園祭に地域の町内会や老人会の方々に招待している。 ・ただし、地域の祭りや児童会、他団体との接触・交流活動等は行われていない。 		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れに関する基本的な取り扱いは定めているが、研修等は実施していない。 ・現在、毎週火曜日の始業前の自習時間に30分程度の「読み聞かせ」時間を設定し、地域ボランティア団体「清水お話し会ふしぎふしぎ」から毎回2名のボランティアを受け入れしている。 		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる機能や連絡方法を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	
【判断した理由・特記事項等】		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所や警察等、関係する社会資源については明示しており、職員間においても子どもの自立支援計画策定時や所内検討会等の場で情報共有を図っている。 ・児童相談所や家庭裁判所、少年鑑別所とは定期的な連絡会議等を通して密に連携を図っており、関係機関には処遇会議等に参加してもらい、問題解決に向けて意見交換を行っている。 		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	

【判断した理由・特記事項等】

・地域の自治会からグラウンド使用の要望があれば、学園の活動に支障が無い限り開放している。なお、令和3年度においては新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から地域からの要望はなかった。
 ・地域の大学や民生児童委員等から視察研修の依頼があれば積極的に受け入れ、非行少年の現状等に関する研修を行っている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【判断した理由・特記事項等】

・地域からの相談等があれば必要な助言や関係機関の紹介等を行っている。
 ・民生・児童委員、大学生、関係機関等から学園の視察見学が要請された際は福祉ニーズ等の意見交換を行っている。

Ⅲ 適切な支援の実施

1 子ども本位の支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

自己
評価結果

①	28 子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・業務マニュアルに、子どもを尊重した支援を行うべく基本姿勢を明記しており、子どもの立場に立った処遇に取り組んでいる。また、児童懇談会で出た意見や意見箱に投稿された意見も速やかに対応している。
 ・自立支援計画策定に係る所内協議の際も、子どもの最善の利益を最優先に考え議論している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・プライバシーの保護に関しては業務マニュアルに規定し、厳密に取り組んでいる。
- ・個人情報の取り扱いを含むプライバシーの保護に関しては、機会あるごとに職員会議で周知徹底している。
- ・プライバシー保護の観点から、学園祭における写真撮影等についても禁止している（事前に保護者にも説明）。

(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・入所時には、学園のパンフレット等を活用しながらわかり易い説明を行っている。また、パンフレットについては、支援の内容等をわかり易く明記している。
- ・見学の際は分校と協力し、施設の支援内容だけでなく分校の支援内容についても説明を行っている。

②	31 支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・入所時には、学園パンフレットや日課表等を用いながら施設の支援内容を丁寧に説明している。
- ・支援の過程においては、処遇会議で決まった支援内容をわかり易い表記で子どもに説明している。保護者に対しては、面会時に支援の内容と併せて子どもの状況を詳細に説明している。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【判断した理由・特記事項等】

・ 養護施設等への措置変更が予定されている場合は、措置変更先の職員にも処遇会議に参加してもらい、現在の支援状況等について細かな情報交換を行うとともに、支援の継続性に配慮した引き継ぎ書を作成している。
 ・ 退所後の支援（アフターケア）については、入所中に担当していた職員を中心に対応し、「アフターケア記録」として記録・保管している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

自己
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・ 毎月児童懇談会（職員参加）を開催し、生活の質の向上に関する子ども達同士の意見交換や、子ども達から職員への意見抽出に取り組んでいる。なお、児童懇談会では、お互い相手の良いところを褒めることや、問題事案はロールプレイング方式で取り上げ、話し合いを円滑に進めている。
 ・ 子ども達から提案された意見については寮会議で協議し、導入・改善できる項目については速やかに取り組むとともに、意向に沿えない項目についてはその理由をきちんと説明している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制（苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置）が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート（匿名）を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・ 「相談・苦情解決実施要領」及び「相談・苦情解決制度運用指針」を策定し、それに基づく運用（第三者委員の設置等）を行っている。
 ・ 子ども達から意見のあった内容については、その解決結果も含め第三者委員に説明している。
 ・ 苦情解決の仕組みについては、「子どもの権利ノート」を利用してわかり易く説明している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・「子どもの権利ノート」に様々な相談機関や相談相手を明記して、子どもに分かり易く説明したうえで配付している。
- ・作業中や自由時間の遊びの中などにも機会をとらえ、子どもの相談に対応している。
- ・寮内には面接室（相談室）がないため、相談を受ける際は空き部屋を活用する等可能な限りの配慮を行っている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情や意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・子どもとのケースワークや日記に書かれた相談や意見・苦情等については、必ず記録（日誌）に残し翌朝の引継ぎにおいて全職員に周知するとともに、緊急かつ重大な案件については、所内会議を開催し迅速な対応に努めている。
- ・対応結果については、速やかに子ども達に説明している。
- ・意見箱を設置し、子どもたちからの意見や苦情等を把握する取組を行っており、意見等が出された場合はその内容を確認のうえ、支援のあり方について改善すべき点があれば、速やかに取り組んでいる。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。

自己
評価結果

①	37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化（リスクマネジャーの選任・配置）、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル）等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・「危機管理マニュアル」を策定し、事故・感染症・災害等、緊急時における子どもの安全確保体制を整備している。
- ・ヒヤリハット事例等に基づき、指導課会議等で状況確認、対応等を協議している。
- ・子ども達の安全安心を脅かす事例が発生した場合は速やかに管理職を含めた協議の場を設置し、再発防止に向け取り組んでいる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

- ・「危機管理マニュアル」を策定し、感染症に係る予防策と発生時の対応策等、子どもの安全確保体制を整備している。
- ・感染症対策の講座を開催し、子どもと職員と一緒に学ぶ機会を設けている。（令和3年度は9月に実施）
- ・新型コロナウイルス予防対策について早急に方針を決定し、適切に実施した。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、支援を継続するために必要な対策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

- ・「危機管理マニュアル」を策定し、災害時の子どもの安全確保体制を整備している。
- ・管理棟及び学習棟について、耐震化工事実施済み。
- ・消防署と連携して総合的な防災訓練を実施したり、防災センターを訪問して地震体験や心肺蘇生法等を子どもと職員と一緒に学ぶ機会を設けている。
- ・毎月1回の避難訓練には児童自身が積極的に参加している。
- ・緊急時の食糧については、食堂に備蓄している。

2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。	自己評価結果	
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

- ・子どもの尊重や権利擁護に関わる姿勢を明示した業務マニュアルを策定しており、職員が共通認識を持って支援に取り組んでいる。
- ・やむを得ず例外的な対応をした場合はその経緯や内容を必ず記録に残し、事後職員間でその対応の是非を検証し、必要に応じマニュアルの見直しもを行っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・業務マニュアルの定期的な見直しは行っていないが、疑義が生じたときはその都度職員会議で必要な議論を行い見直しを行っている。
- ・毎月の寮会議や職員会議において、支援の状況を職員全員で確認している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・自立支援計画は、児童相談所の援助指針を基に作成し、園長、副園長、指導課長、寮長、心理士、分校教諭の出席する所内検討会議にて確認される。これを関係機関(児童相談所、原籍校、少年鑑別所等)の出席する処遇検討会議に諮り、そこで策定される。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・自立支援計画については、業務マニュアルに基づき所内検討会、関係機関との処遇会議を経て定期的に策定、見直しを行っている。
- ・子どもを取り巻く環境に変化が生じたときは、随時自立支援計画の見直しに取り組んでいる。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・記録様式は統一され、内容や書き方に差異が生じないよう組織としてチェックされている。日誌はネットワークシステム上でいつでも確認でき、支援の状況は、毎月実施される職員会議で情報共有が図られている。
- ・行動上の問題が生じ個別支援を実施した際は、別途日誌を作成し個人毎にまとめている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・県個人情報保護条例に基づき適切な情報管理が行われている。
- ・個人情報の適正な取り扱いに関しては、職員会議の場で随時注意喚起を促している。

内容評価基準（27項目）A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1) 子どもの権利擁護	自己評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・宗教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを権利の主体と位置づけ、受容的・支持的な関わりを基本とし、一人ひとりの人格を尊重しながら支援を行っている。 ・自立支援計画の策定に係る所内協議では、職員は常に子ども達の最善の利益を念頭に議論を行っている。 ・全職員を研修に参加させ、自立支援の実践に関する共通理解、共通実践に取り組んでいる。 	
<p>② A2 子どもの行動制限等は、その最善の利益になる場合のみ適切に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設として、子どもの行動制限等についての規程やルール、マニュアル等を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動制限等は、規程やルール、マニュアル等に即して行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>規程やルール、マニュアル等を定期的に検証し、必要な場合には見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動制限等について、職員間で検証・検討する場を設ける等により理解の共通化やより良い対応に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動制限等を行った場合、必要に応じて児童相談所等に報告している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援日課など子どもの行動を制限せざるを得ない場合は、業務マニュアルに基づき実施している。実施する際には、学園内で協議（園長、副園長、指導課長、班長、担当等）のうえ、実施している。 ・特別支援日課を行う場合は、子どもや保護者にその理由を事前に説明のうえ取り組んでいるが、ケースによっては保護者への説明が事後になっている場合がある。 	
<p>③ A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に全体場で権利についての理解を深めるように子どもたちに説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活の中で起こる出来事を通じて、子どもの自身や他者の権利について正しい理解につながるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの状態に応じて、権利と責任の関係について理解できるように説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>年齢に配慮した説明を工夫している。（例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会）</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に職員研修として、子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・入所時には、「子どもの権利ノート」を配布し、権利等について分かり易く説明している。 ・定期的な権利の説明は行っていないが、日常生活において説明が必要な場面があればその都度丁寧に説明している。また、児童懇談会での要望、相談、苦情等には子どもと話し合って解決することを基本とし、できる事とできない事の根拠を明確に示し、丁寧に応えている。 ・定期的な職員研修は行っていないが、子ども達から苦情の申し出等がなされた場合や施設外研修での内容等を全職員で共有し、子ども達の権利について意見交換を行っている。また、各寮毎でも学習の機会を設けている。 	

(2) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・業務マニュアルに不適切な関わりの起こりやすい状況や場面の具体例を明示しており、これにより全職員が共通理解のもと支援に取り組んでいる。
 ・子どもとの関わり方に悩んだ場合は、一人で抱え込まず必ず寮長や寮職員に相談することとしており、必要に応じて宿直勤務を交替する等、職員配置についても配慮している。
 ・子ども達への支援技術を高めるため、様々な研修に職員を派遣している。
 ・ヒヤリハット一覧表を作成。職員間の情報共有強化及び対応力向上に活かしている。

(3) 子どもの主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A5 子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちが施設の行事・余暇活動の企画・運営等にかかわることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが生活上の問題や課題について主体的に考え、その上で取組、実行、管理するといった内容を含んだ活動をしている。	
	<input type="checkbox"/> 生活全般について、日常的に話し合う機会を確保し、生活改善に向けての取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた生活習慣や生活技術の習得に向けた支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・毎月児童懇談会を開催し、生活面における改善点や活動内容等について、子ども達が自主的に考える機会を設けている。また、分校での生徒集会には必ず学園職員は同席し、子どもたちの自己表現力等について確認するようにしている。
 ・児童懇談会で提案された意見については、寮会議で協議し、導入・改善できる項目については速やかに取り組むとともに、意向に沿えない項目についてはその理由をきちんと説明している。

(4) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どもが安定した生活を送れるよう退所に向けた支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの実情に応じた目標設定を行い、自立支援計画に基づいて退所に向けた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所や関係行政機関と協議の上、適切な退所時期や退所後の生活を検討している。	○
	<input type="checkbox"/> アフターケアに備えて、児童相談所と施設の連携(役割分担と協働)、地域の関係機関(要保護児童対策地域協議会、児童家庭センター等)、人的資源(民生児童委員等)を活用した支援体制の構築を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・「アフターケア実施要領」を策定し実施している。
 ・重点事項(事業計画)の一つに「アフターケアの充実」を位置づけ専任の担当者を配置し、アフターケア計画策定の徹底と当該計画の進行管理の徹底に取り組んでいる。
 ・退所時期が概ね確定した段階で、関係機関による処遇会議を行い、アフターケアに関する役割分担を明確にし、当該役割分担に基づき支援に取り組んでいる。

②	A7 子どもが安定した生活を送れるよう退所後も継続的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの自立のための通所支援を積極的に実施している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて訪問による支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの来所を温かく受け入れ、自立を励まし、支援する取組を行っている。必要な場合は短期間の宿泊による支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの自立のための通所による支援を実施するうえでの課題や条件整備について前向きに検討している。	
	<input type="checkbox"/> アフターケアは施設の業務であり、退所後何年たっても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況を把握し、退所後の記録を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、児童相談所と協議の上、市町村の担当課と情報共有し、地域の関係機関、団体等と積極的な連携を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

・「アフターケア実施要領」に基づき、退所時点でアフターケア計画を策定し、家庭訪問や電話連絡、手紙による支援等に取り組んでいる。また、アフターケア実施後は、その都度記録を作成し必要に応じて児童相談所等関係機関と情報の共有を行っている。
 ・退園に向けた方向性が概ね固まった段階で、退園に向けた支援計画を策定し、リービングケアからアフターケアへの連続性を見据えた支援に取り組んでいる。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		自己評価結果
①	A8 子どもと職員の信頼関係を構築し、家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、子どもたちが日常生活の中で「大切にされる体験」を積み重ね、信頼関係や自己肯定感を取り戻すことができるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに安心・安全な生活を提供して不安の解消を図るとともに、子どもの良さ、強み、潜在的な可能性を見つけるなど、子どもに対する受容的・支持的かわりを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちがお互いにその人格を尊重し、お互いの長所を認め合い、助け合うことのできる良質な集団づくりを行うなど、集団生活の安定性を確保するための取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもと良好な関係が持てるよう、職員と子どもが個別にふれあう時間を確保したり、施設全体の行事とは別に小集団での行事等を子どもと計画を立て実施するなどの工夫がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの集団生活の状況に応じて、臨機応変に生活の内容を変えて対応している。	

【判断した理由・特記事項等】

・施設の構造上、小集団での養育には限界があるが、子どもの特性を全職員が共有し、一人ひとりの子どもにしっかりと寄り添うことを基本として支援に取り組んでいる。
 ・行動上の問題が発生した場合でも指導的に偏ることなく、子どもの話をしっかりと傾聴し、気持ちを理解するよう努めることで信頼関係を構築している。
 ・子ども達と職員と一緒に調理実習を行ったり、スポーツや遊びに興じたりする等、家庭的・福祉的アプローチに積極的に取り組んでいる。
 ・子ども達の誕生日には、全職員からのメッセージカードをプレゼントしたり、好きなメニューを夕食の献立に取り入れたり等、一人ひとりが大切にされていると実感できるような支援を行っている。

②	<p>A9 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設でのルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。また、子どもたちにわかりやすく具体的に文書等で示している。</p> <p><input type="checkbox"/>普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。</p> <p><input type="checkbox"/>地域社会への参加等を通じて、社会的ルールを習得する機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが個々のニーズに応じて主体的に余暇活動などを行い、それを通して、協調性や社会性を養うように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
---	--	---

【判断した理由・特記事項等】

- ・施設の構造上、家庭生活に近づけることには限界があるが、衣食住の充足や家庭的な雰囲気での関わりを通して良質な生活が送られるよう支援している。
- ・地域清掃活動や子猫を預かるミルクボランティア活動等を通して、社会貢献意識の醸成や規範意識の確立に取り組んでいる。

③	A10 自らの加害行為に向き合うための支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 加害行為を行った子どもが自分の行為を振り返り、きちんと向き合うための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 振り返る際、行動上の問題が発生した要因等について自己理解を深め、その軌道修正をはかることができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> この取組を通して成長できたという成長感や自己肯定感などを育成できるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所後の行動上の問題への対応について、職員間でケース会議を行い、検証を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・入所時オリエンテーションや担当職員との定期的な面接を活用し、入所に至った加害行為について被害者への気持ちを考えさせたり、また、それを言語化させることで、自身の加害行為に向き合わせるとともに、現時点での気持ちを整理させている。
- ・行動上の問題が発生した際は、子どもと一緒に発生メカニズムを考え自己認識を深めるよう支援している。
- ・行動上の問題への対応については、職員間でのケース会議だけでなく、九州地区ブロック会議や研修等での課題テーマとするなど幅広い観点での検証を行っている。

(2) 食生活

①	A11 子どもの発達段階に応じた食習慣の習得など食育を適切に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 朝食、昼食、夕食それぞれの食事時間が子どもの基本的な生活習慣の確立につながるよう設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 電子レンジや保温、保冷庫等を用意し、食事時間以外においしく食べられる配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 食材の買い出しや食事の準備、配膳、基礎的な調理技術を習得できるよう必要な設備、機会が用意されている。	
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 誕生日や卒業など、特別な日には献立に工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちが育てた収穫物を簡単な方法で調理するなど、食への関心を育てている。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する知識(栄養面、価格面など)を得られる機会が設けられている。	○
	<input type="checkbox"/> 外食や弁当、レトルト等の利用であっても、偏食になりにくい組み合わせのヒントを教えるなど、実生活に即した配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 疾病などの場合にも対応できる食の知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立に向け、健全な食生活の実現や健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食を選択する判断力などを楽しく身につけるための支援をしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・学校や生活日課に合わせて適切な食事時間を設定している。
- ・外出等で食事時間に間に合わない場合は、電子レンジを使い温かい食事が提供できるよう対応している。
- ・誕生日やクリスマス等を含め、季節行事に合わせた献立を提供している。

②	A12 子どもの嗜好や栄養管理に配慮し、食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 和気あいあいとした会話のある食事に心がけるなど、団らんの場として明るく楽しい雰囲気の中で食事ができるように工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は、常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個人差(年齢、障害)や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供し、疾病時には飲み物などに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫(季節の花が飾られていたり、ランチョンマットの使用など)、食事を美味しく食べられるように工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 好き嫌いをなくす工夫や偏食への支援については、無理がないよう配慮し実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定例的に残食の状況を確認し、子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、変化に富んだ献立を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活支援担当職員と給食担当職員との定例的な連絡会議を開催し、食生活の向上などに努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 栄養士が配置されている場合、専門性を活かし、日々提供される食事内容や食事環境に十分に配慮するとともに、子どもに対する献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食を通して、個々の子どもがその存在を大切にされていることを実感できるように工夫している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

- ・嗜好や栄養、季節に配慮された食事が提供され、職員と児童が会話を交わしながら和気あいあいとした雰囲気の中で食事をしている。また、陶器のごはん茶碗とマイ箸を使用させるなど、家庭的な雰囲気を意識して取り組んでいる。
- ・給食会議を毎月実施し、残食の状況確認や子ども達からの要望について意見交換を行い食生活の向上に取り組んでいる。
- ・食事のマナー指導に関しては、更なる工夫が必要である。

(3) 日常生活等の支援

①	A13 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用し、衣習慣を習得できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得を支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 破れやほつれなどの修繕が迅速に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れが無いものが着用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボタン付けや簡単な修繕ができるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 用途や体に合った靴を提供し、清潔な靴を大切に使う習慣を身につけられるよう支援している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

- ・児童それぞれのサイズに合った衣類を提供しており、かつ、毎日清潔な衣類が着用できるよう必要な枚数を支給している。冬は、インナーやウインドブレーカー、ヒートテック下着等を支給しており、季節による調整も適切に対応している。
- ・高校通学児童、中卒児には、外出用に年齢相応の衣類を支給し、派手でない私服(私物)の持ち込みも認めるようにしている。
- ・靴下等が汚れたときは、漂白するように指導する等、適切な衣習慣の獲得のために工夫している。

②	A14 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 建物の内外装、設備、家具什器、庭の樹木、草花など、子どもを取り巻く住環境から、そこにくらす子どもが大切にされているというメッセージを感じられるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが私物を収納できるよう、個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、軽度な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 居場所となるように家庭的な環境としてくつろげる空間などを確保するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるようになっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、子どもの状況に応じて配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 疾病時などに静養できる個室や特別な部屋等を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 着替えなどプライバシーを守れる環境を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> TV、DVD、音楽プレイヤー、楽器や本など子どもが楽しめる環境を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが安心して十分に睡眠がとれるように配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・施設の補修の中で、寮内の壁のヒビ補修塗り替えや風呂、トイレのタイルの張替えなどを実施。また、園内にたくさんのお花を植えたり、樹木の手入れをしながら、きれいで快適な環境構築に努めている。
- ・それぞれの寮の中で、子どもの意見を聞きながら、可能な範囲で、より家庭的な環境を作り出す努力は常に行っている。なお、TVやDVD、音楽プレイヤー、ボードゲーム等子どもが楽しめる環境を整えている。

③	A15 スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> スポーツ活動(クラブ活動)は、身体能力を育てるだけでなく、忍耐力、責任感、協調性、ルール(規範)を身につけ、自己肯定感を醸成する機会として実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの興味、好みを可能な範囲で取り入れ、体制を整えて支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた内容が取り入れられ、子どもが達成感を得られやすい目標設定で支援している。	○
	<input type="checkbox"/> ルールを尊重するとともに、子ども間の協力やチームワークなど、子どもの社会性の発達を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自主性や自発性を持った活動を行い、最後までやり通せるように支援している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・分校と連携し、例年、九州児童自立支援施設協議会が実施する野球大会・バドミントン大会への参加に向けて放課後週3回スポーツ活動に取り組み、忍耐力や協調性等を養うよう支援している。
- ・余暇時間には、サッカー、バスケット、なわとび、散歩、木工工作など子どもの興味のあるものの活動を通して豊かな心身の育成を支援している。
- ・年1回、子ども達が主体となってレクリエーション内容を企画し、子ども達と分校、寮職員によるスポーツ交流会を実施。子ども達は、自分たちが企画したことで達成感を得ている。
- ・子猫のミルクボランティア等、様々な活動を通して責任感や協調性を養っている。

(4) 健康管理

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、服薬や薬歴のチェック等を行い、日頃から注意深く観察している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。また、あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの心身の異常の訴えに適切な対処を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> インフルエンザの予防接種など接種できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 保健師や養護教諭(分校等)と連携をとっている。配置のない場合は配置に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的な健康チェックを実施するなど、子どもの健康状態・発達状態の把握や健康管理に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・定期的な健康診断等で子ども達の健康状態の把握と異常の早期発見に努めている。
- ・朝、夕のミーティングの際、子ども達一人ひとりについて体調確認を行っている。
- ・医療機関受診の際は職員が同行し、主治医に生活状況等を報告するとともに、必要に応じて主治医からアドバイスを受ける等医療機関と緊密な連携を図っている。
- ・インフルエンザの予防接種に関しては、保護者から同意書を取り、予防接種に積極的に取り組んでいる。
- ・令和3年度は保護者の同意を得て対象児童への新型コロナウイルスワクチン接種を行った。

②	A17 身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 医療機関との連携による取組を通して、子ども自身が身体の健康や安全を自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的な理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 軽いケガや疾病などの処置ができるような体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な疾病やケガに関する知識や対処方法を学ぶ機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・子ども達の健康状態については日々の日誌に記載し、全職員が把握できるよう取り組んでいる。
- ・危険物（草刈り機等）については、基本的に使用させないようにしている。
- ・農機具倉庫には、利用表を置き、危険物の管理徹底に努めている。
- ・散髪は職員引率のもと定期的を実施している。

(5) 性に関する教育

①	A18 性に関する教育の機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を理解する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童自立支援施設に相応しい性教育についての職員の学習会を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招いて、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 日頃から職員の間で児童自立支援施設に相応しい性教育のあり方等について意見交換している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・学園と分校が連携し、性教育部会を立ち上げ、適切な支援技術等の習得及び児童自身への意識づけを強化している。
- ・外部講師や学園の心理士により、性教育講座、研修会（児童向け、職員向け）を実施している。
- ・令和3年度は、外部講師による性教育に係る職員並びに児童向け研修会を実施。

(6) 行動上の問題に対する対応

①	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の密室・死角等の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は観察を密にし、個別支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員では暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力防止プログラムの活用など、子どもに対して暴力防止に向けた支援を展開している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内での重要なルールとして「暴力防止」を掲げ、日頃から他者の権利を守ることの大切さを子どもと話し合う機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成や部屋割りなどには、子ども同士の関係性に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめについての対応マニュアルを作成している。	○

子どもの遊びにも職員が積極的に関与するなどして子ども同士の関係性の把握に努め、いじめなどの不適切な関係に対しては適時介入している。

○

【判断した理由・特記事項等】

- ・ 日常のケースワークの中で、相手に対する思いやりや他者理解が大切なことを理解させている。
- ・ 子ども間のいじめや暴力行為があった場合は、分校と連携し子ども達の心のケアや安全確保に迅速に対応するとともに、分校の協力のもと、全校集会を開き、絶対に許されない行為であることを子ども達に理解させている。また、被害と加害を分離する必要が生じたときは、児童相談所の協力を得て一時保護等に取り組んでいる。
- ・ 日頃から子ども達のパワーバランスの把握に心がけ、部屋割り等に配慮している。

②	A20 子どもの行動上の問題に適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、子どもの特性等あらかじめ職員間で情報を共有化し、連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急事態に対する対応マニュアル等を作成し、組織的な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設が、子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについては、問題となる行動を観察・記録するとともに子ども本人からの訴えを傾聴し、発生の要因やメカニズムなどについて子どもと共に分析して、子どもに説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な支援技術を習得できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の子どもの安全、安心な生活を破壊し、施設の生活を成り立たせなくする暴力行為等に対し、施設全体で対応する仕組みを設け、周囲の子どもの安全を図る配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 集積した子どもの行動上の問題に対して、多角的に検証して原因を分析したうえで適切に対応し、また、記録にとどめ、以後の対応に役立てている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所、警察機関などの関係機関と日常的に連絡を取るなど、緊急事態への対応が円滑に進むよう対策を図る。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関を含めてケースカンファレンスを実施し、その対応策などについて検証している。	○
	<input type="checkbox"/> 影響を受けた子どもへの配慮ある支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・ 行動上の問題が生じたときは、学園・分校が一体となって迅速に対応するとともに、必要がある場合は、児童相談所等関係機関と連携のうえ一時保護の活用等適切に対応している。
- ・ 子どもに対しては十分な時間を取り、聞き取りや振り返り等でしっかりと話を聞き、子どもが課題を見つめ直すきっかけとなるよう働きかけている。
- ・ 行動上の問題に対する検証や防止策の取り組みを適宜実施しているが、施設の構造上、限界があるように思える。

(7) 心理的ケア

①	A21 必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアを必要とする子どもには、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理的な支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応じて、有効なプログラムを柔軟に組み合わせたり修正したりして、心理的な支援プログラムを作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援プログラムにおいて個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的な支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、心理的な支援が行える体制ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども個々に心理的ケアの担当者を決め、定期的に心理的な支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて心理検査などを行い、ケースカンファレンスを通じて、ケア効果について評価し、見直しを行いながら、継続的に心理的な支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 良質な生活環境づくりを行い、施設での生活そのものが心理的ケアとなるような生活環境の提供に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・ 近年、心理ケアを必要とする子どもが増加しているため、令和2年度から常勤の心理士を配置し、中央児童相談所の心理判定員と連携しながら心理ケアに取り組んでいる。さらに、心理的ケアが必要な子どもへの対応について常勤心理司による職員研修や意見交換を通じ職員の対応力の底上げを図っている。また、必要に応じて、非行臨床の専門機関である法務少年支援センターの協力を得て心理面の見立てを行っている。

(8) 学校教育、学習支援等

①	A22 施設と学校の緊密な連携のもと子どもに学校教育を保障している。	a
	(学校教育が実施されている場合) □日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保されている。	○
	□原籍校と連携を図り、子どもが不利益をこうむらないように、学習進路等の支援を行っている。	○
	□施設と学校が個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	○
	□学校で生じた行動上の問題に対しては、学校と協力して対応している。	○
	□学校との協議に基づき、子どもの個々の学習計画を立て、それに応じて支援し、計画の見直しを行っている。	○
	□施設は子どもにとって学校で認められ、活躍できる居場所となるように支援を行っている。	○
	□個別ケース会議には、原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	○
	□家庭復帰を目指す場合は、退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○
	(学校教育が実施されていない場合) □原籍校と連携を図り、子どもが不利益を被らないように、学習・進路等の支援を行っている。	△
□学校教育を実施する際の課題等を検討するなど実施に向けての取組を真摯に進めている。	△	
□学校教育が実施されていないが、教育内容等は子どもの最善の利益のために十分な配慮を行っている。	△	
□家庭復帰を目指す場合は退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	△	

【判断した理由・特記事項等】

- ・毎朝の引継ぎにより、日々の子ども達の状況に関し確実に伝達し情報共有を行っている。また、ちょっとした子どもの変化やサインについても見逃さないよう、分校職員と学園職員は常に意見交換を行っている。
- ・個別支援計画の策定や処遇検討会議においては、必ず分校職員も参加し、支援の方向性について共通理解を図っている。
- ・分校で発生した行動上の問題に対しては、施設も一体となってその対応に取り組んでいる。

②	A23 学習環境を整備し、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	□忘れ物や宿題の未提出が無いよう支援している。	○
	□辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。	○
	□静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。	○
	□年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう支援している。	○
	□学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	□学習ボランティアや学習塾など社会資源を活用して学習支援をしている。	
□就業に結びつく資格取得や検定を受ける機会を設けている。		

【判断した理由・特記事項等】

- ・分校、分教室の設置により、安定した教育が保障されている。
- ・分校の取り組みにより、寮の自習時間等に「自学ノート」学習を推奨、自習時間の有効活用及び勉学向上が図られている。
- ・中学3年生は、2学期後半から部活動を受験勉強の時間に変更し、分校と学園が連携しながら高校受験の支援に取り組んでいる。
- ・分校の取り組みにより、定期的に漢字検定試験を行い、合格者については全体集会の場で表彰、児童自身のモチベーションアップにつながっている。

③	A24 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して自立に向けた支援に取り組んでいる。	a
	□実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	□事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	○
	□各種の資格取得を積極的に奨励している。	
□職場実習に対する施設としての取組について、規定を設けるなどして、職員が共通認識をもって、子どもの自立支援に取り組んでいる。		

<input type="checkbox"/> 子どもが、作物などの育成過程を通して、協働して作業課題を達成する喜びを体験し、勤労意欲の向上、心身の鍛練を図れるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 仲間との共同作業などを通して、人間的ふれあいや生命の尊厳及び相互理解を深め、社会性や協調性などを培うように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 働く体験を積み重ねることで、根気よく最後まで取り組む姿勢など社会人として自立するために必要な態度や行動を育てている。	○
<input type="checkbox"/> 自然の環境の中での作業体験を通して、情操の育成が図られるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 作業カリキュラムが策定されている。	
<input type="checkbox"/> ソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

- ・分校の職場体験学習や退園生による職業講話を行う等、職業感の育成に積極的に取り組んでいる。
- ・作業は、畑作業や除草作業、エアコン掃除、ぞうきん縫い等、毎週木・土・日の3日間、意欲的に取り組んでいるが、作業カリキュラムが策定されているのではなく、その日の状況を見ながら実施している。
- ・今年度から日課の一部（月曜放課後等）を活用し、SSTを試行的に行っている。

④	A25 進路を自己決定できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、必要な資料を収集、多様な選択肢と判断材料を示して子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、施設入所を継続し、子どものニーズに応じた社会経験を積めるように配慮し、進路支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業予定の子どもが入所している場合、進路支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 進路支援カリキュラムが策定されている。	

【判断した理由・特記事項等】

- ・進路については子ども達自身が自己決定できるように、早い時期から高校に関する情報提供を行い様々な相談に応じている。また、分校においても、中3の7月から進路相談を加速化するとともに、児童相談所等の関係機関を交えて進路に関する検討会議を実施している。
- ・保護者との協議に関しては、分校を中心に児童相談所と連携しながら相談支援に取り組んでいる。
- ・中卒児の継続支援にも取り組んでいる。

(9) 親子関係の再構築支援等

①	A26 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、アセスメントに基づく家族支援の計画が記載されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家族支援の計画は、保護者や児童相談所などの関係機関等と協議して策定され、必要に応じて見直している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 親子の関係改善を目的に、日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を家族に随時知らせたり、施設行事などへの参加を積極的に促し、その際、受容的なかわりを心掛けて、信頼関係を築くようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅は、子どもと保護者等との協議によって目標を立て、必要に応じて児童相談所とも連携して実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の安定した関係に配慮し、保護者等の養育力の向上に資するよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家族の抱える課題に対して、児童相談所と連携しながら、または独自に、保護者等と定期的に面接やカウンセリングあるいは家族支援プログラムを行うなど、具体的な支援を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

- ・個別の自立支援計画の中に家族支援を位置づけ、児童相談所と連携のうえ保護者の養育能力向上に取り組んでいる。
- ・外出や一時帰省については、業務マニュアルに規程を定め児童相談所と協議を行ったうえで実施している。
- ・家族との絆が途切れないよう、面会の他にも定期的な手紙の交流を実施している。
- ・親子関係の再構築のため、親子が一緒に料理をしたり、買い物に行ったりする「親子ふれあいタイム」を積極的に取り入れ双方の支援に取り組んでいる。

(10) 通所による支援

①	A27 地域の子どもの通所による支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援に必要な予算・人員等が確保されている(又は、予算・人員等の特別な確保はないが、既存枠内で対応できている)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援専用の施設設備が整備されている(又は、既存施設の有効活用により対応している)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援が、施設の「事業計画」に規定され、組織的な取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援のみならず、地域の子どもの健全育成のための、子育て講座や子育て支援プログラムが計画・実施され、児童自立支援施設の機能が有効に活用されている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

通所支援は行っていない。